

平成20年度第2回ものづくりベンチャー支援セミナー

遠心分離と沈殿の原理で驚異的な回収率を誇るエレメントレスフィルターを開発
～国内大手自動車メーカーが認めたコスト面や環境配慮に優れたエレメントレスフィルター～

ものづくりベンチャー支援セミナーでは、ものづくりに携わってこられたエキスパートの方を講師としてお迎えしています。今回は、産業廃棄物ゼロ・メンテナンスゼロ・ランニングコストゼロでありながら、微粒子のゴミを驚異的に回収するエレメントレスフィルターを自社技術で開発された株式会社industria(埼玉県入間市)代表取締役会長 高橋 喜一 氏の講演内容をご紹介します。



高橋 喜一 氏

ブランド「industria」立ち上げ～脱下請け宣言!!～

当社は、部品加工・溶接加工・磨き加工を得意とする下請け比率100%の企業として創業しました。ところが、独立3年後に取引先の諸事情から売上が急減しました。この時に自社製品の必要性を痛感し、自社製品開発を全社員に呼びかけましたが、これといった意識の盛り上がりには至りませんでした。しかし、入社してきた現社長である息子が、私に革新の息吹を吹き込みました。「このままでは、下請け企業のまま終わってしまう」という危機感から「下請け脱却」を提案し、オリジナルブランド化戦略を推進しました。当社の優れた技術をレイ・ヴィトンやグッチにも負けないような価値として認めもらえるブランドに育てるため「industria」ブランドを立ち上げました。

オンリーワン「魔法のつつぽ」FILSTAR誕生の裏には

この頃、ある製薬メーカーから耐高温性滅菌用バルブの開発依頼がありました。これまでにバルブの製造など経験したことはなく、使う材料、設計、全て一からの開発で苦労しました。しかし、とにかく諦めないで努力した結果、あらゆる課題を乗り越えて完成させることができました。しかも、このバルブの改良型が自社製品の第1号となったのです。この成功は、自社の技術が確かなものであるという自信を深め、長年の構想だった水に関連する技術の開発と製品づくりを考えるようになりました。そんな折、新しく導入したガラス等を加工する機械で、切削粉がクーラントのろ過フィルターに目詰まりするという大きな課題に直面しました。この課題の解決こそ、構想してきた技術であり、自社用としての開発を決意しました。しかし、開発のためには全く新しい技術を必要とし、資金的にも苦しい挑戦でしたが、遠縁の技術者を招き、県の試作補助金を活用することで20μmのゴミまでろ過できる試作品が完成しました。それでも、ここで満足せずにさらなる機能向上を求めて、「遠心分離」と「沈降・沈殿作用」について研究しました。特に沈降・沈殿の過程で苦労しましたが、知人の流体力学専門家のアドバイスによって完成させることができました。しかも、想像以上の10μmのゴミまでろ過できたのです。今ではお客様のニーズに応えるため、広島大学と産学連携によって、より小さなゴミのろ過も可能な製品を開発しました。こういった自社の殻を打ち破る開発では、自社に足りないものは様々な連携を活用することが有効

です。当社では、「大学は研究開発に専念、企業はものづくりに専念」を徹底し、短期間での開発に成功しました。

マーケティングは大胆に

エレメントの交換が不要でコストの大幅な削減が可能なFILSTARは、実験的に設置した電機メーカーで好評を得て、出展した東京の展示会でも大きな注目を浴びました。しかし、この製品をどこに売れば良いのかというマーケティングの課題もみえてきました。この時、どうせ売り込むのなら日本一の自動車メーカーにと社内で意見が一致しましたが、そう簡単には認められません。次々と改良の宿題が出ましたが、1週間の期限ならば3日で、2日ならば徹夜で仕上げるといった具合に、1日でも早く結果を出す努力をしました。そうした真摯な姿勢が評価され、最終的にメインラインで導入されました。しかも、世界規模の品質管理に厳しい企業に採用されたことで、自社製品として販売する時にはスペック・価格が自然に世界標準となり、様々な業界の企業にも認められたのです。

industriaにしかできないものづくり

当社は大量生産ではなく、「industriaにしかできないものづくり」にこだわってきました。お客様の要求にとことん応えて、お互いに納得のいく製品づくりを追求すれば、それはオンリーワン製品の開発につながります。しかし、ものづくりへの挑戦は飽くなき技術への挑戦です。これで満足だという技術革新はありません。当社の技術が求められ、その挑戦が勉強になると考えるなら採算を無視してでも引き受けるというのが当社の理論です。これこそが当社の強みなのです。

DATA

株式会社industria

代表取締役会長 高橋 喜一 氏 代表取締役社長 高橋 一彰 氏

所在地 〒358-0014 埼玉県入間市宮寺2700

事業内容 industriaブランド製品の企画開発製造販売、各種装置の設計・製造、微細加工・溶接・磨きの受託加工

T E L 04-2934-8501

F A X 04-2934-8500

U R L <http://www.industria.co.jp/>

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497

E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp